

2006年度 大学英語教育学会（JACET）関西支部 第2回講演会開催のお知らせ

関西支部支部長 木村博是
大学英語教育学会関西支部事務局
〒522-8533 彦根市八坂町 2500
滋賀県立大学 小栗裕子研究室
E-mail: yoguri@ice.usp.ac.jp

新春の候、会員の皆様にはますますご健勝のことと拝察いたします。

さて、今年度の第2回講演会を下記の要領で開催したく存じます。奮ってご参加いただきますようお願いいたします。

記

日時： 2007年3月4日（日曜日） 15時30分-17時00分（受付は15時00分から）

場所： 関西学院大学大阪梅田キャンパス

（阪急梅田駅 茶屋町口改札口より 北へ徒歩5分）

〒530-0013 大阪市北区茶屋町 19-19 アプローチタワー14階

TEL： 06-6485-5611

http://www.kwansei.ac.jp/kg_hub/access/

講師： 西村和雄氏（京都大学）

演題： 日本の教育—私達の責任は何か—

司会： 岡田伸夫氏（大阪大学）

資料代： 会員 無料、非会員 500円

事前申込不要。直接会場にお越しください。

お車でのご来場は、ご遠慮ください。

講演会終了後、懇親会を予定しております。

場所： がんこ梅田本店（阪急梅田駅 徒歩3分）

〒530-0012 大阪府大阪市北区芝田1丁目5-11

TEL： 06-6376-2001

<http://r.gnavi.co.jp/k026602/>

会費： 4,500円

申し込み： 2月23日（金）までに、担当幹事の 小栗裕子

（yoguri@ice.usp.ac.jp）までご連絡ください。なお、会費は当日徴収いたします。



要旨

日本の英語教育では、現在、中学校で学ぶ必修英単語は 100 (以前は約 500) まで削減され、また中学一年生から三年生まで、教科書のほぼすべてが会話文となっている。文法の教科書は廃止されて久しい。その結果、塾で身につけた子どもを除けば、主語、述語、目的語の区別もできないまま、高校に進学する子が多い。現行の指導要領で学んだ子を受け入れ始めた高校側は、著しく低下した英語力に対する策を迫られている。

従来ですら、日本の学生の TOEFL の成績は、北朝鮮と並んで世界最低と言われてきた。発展的学習として、単語数を追加したくらいでは、英文を読む力は十分につかない。会話文だけしか扱わないという極端な中学英語の教育を改める必要がある。

国語でも、書くこと、話すことを重視するあまり、読む力が軽視され、その結果として、古典的な文学作品が教科書から消えてしまった。そして、漢文教育は衰退したまま、改善の兆しが無い。

音楽でも、今年から少し復活したとはいえ、これまで、教科書から唱歌や童謡が削られてきた。唱歌を削るように、親の側から要望があったとは思えない。教育関係者の限度を超えた物分りの良さが、唱歌や童謡の削減となったのであろう。

数学でも、本来、積み重ねで理解してゆく高校数学を、社会の歴史、地理、公民などと同じようにぶつ切りにしてしまった。このことは、一年生が数 と数 A、二年生が数 と数 B などのように細分されたことに表れている。

我々が、『分数ができない大学生』を出版したときは、大学入試の少数科目化を最大の原因として挙げた。しかし、責任は、ゆとり教育にもある。基礎・基本をおろそかにしてきたこと、そして、何よりも、体系的理解を妨げるカリキュラムに変えてきたことに原因がある。

プロフィール

1946 年生まれ。東京大学卒業。ロチェスター大学大学院博士課程修了 (Ph.D. 取得)。日本、カナダ、アメリカの大学で教えた後、1987 年より京都大学経済研究所教授。現在、京都大学経済研究所所長。

Econometric Society の終身フェロー (1992 ~)。日本経済学会会長 (2000 ~ 2001)、国際教育学会会長 (2006 ~)、日本経済学教育協会会長 (2002 ~) を務める。

[主要著書] *Optimization and Chaos*, Majumdar, Mitra and Nishimura, Springer, 2000、
『複雑系を超えて』(筑摩書房)、『分数ができない大学生』(東洋経済新報社)、『大学生の学力を診断する』(岩波新書) 等多数。